



奄美大島
徳之島
鹿兒島・佐多岬
熊本・天草御所浦島
長崎・五島桜島



SAVE THE BIENOKO

海よ、
たつたひとつの海よ、
私たちは
つながって在る。



香川・小豆島
山口・防府
山口・黒髪島
福岡・門司

(左上) 奄美大島住用湾の採石地近く
(中) 辺野古埋め立て予定地
(右上) 小豆島近海

西日本の自然を破壊し、大量の岩ズリを持ち去り、辺野古の海を埋め立てる暴挙の即時中止を!



奄美市住用町の採石場

大量の土砂搬出計画が

判明したのは2013年12月、沖縄防衛局が沖縄県に提出した辺野古新基地建設の埋め立て申請書からです。そこには辺野古の海を東京ドーム17個分に当たる土砂で埋め立て、その大半の岩ズリを沖縄島外から搬入。購入先として九州・瀬戸内の7地区13箇所を挙げ、奄美大島や天草、五島、黒髪島(山口)、小豆島などの名が記載されています。

この前代未聞、海を遠く隔てた地域から、埋め立て用の土砂を海上運搬、調達するために、本体を上回る1200億円の国費が投じられようとしています。しかも政府は、建設反対を掲げて当選した翁長新沖縄県知事や沖縄県民の声を全く聞くことなく、「辺野古こそ唯一絶対の策」と強弁、着々計画を実行しています。まさに「辺野古の海」危うし、です。

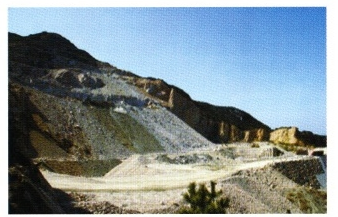


真っ先に「土砂搬出反対」

声をあげたのは市民団体「環瀬戸内海会議」で2013年末、沖縄県、防衛省に計画中止を要請。続いて奄美大島からも「自然と文化を守る奄美会議」が2015年1月、鹿兒島県知事に政府へ計画撤回を働きかけるよう申し入れ。さらに両者が共同歩調で同年2月、環境省、防衛省に計画の即時撤回を申し入れました。

貴重な沖縄の海が失われることに全国から怒りが高まっていますが、事態は岩ズリ調達予定地でも同様です。沖縄に近く3箇所の採石場が記載された奄美大島では、かつて大規模採石場に亀裂が入り、避難騒ぎも。今も粉塵・騒音被害や、生活道を落石で塞がれ、巻き添え不安の声が高まっています。その採石場の目鼻の先にはマングローブの内海や、リュウキュウアユ、アマミノクロウサギが生息しています。

同様に一時は核のゴミ処理場進出が持ち上がった熊本県天草市の御所浦島では、恐竜の化石を生かし「ジオパーク」認定を受けた矢先だけに、「また夢と島が壊されそう」と失望が広がっています。瀬戸内の宝石・小豆島も不要不急な巨大ダム計画で揺れたばかりですが、再び土砂問題に直面する羽目に。戦後痛めつけられ続けられた、ふるさとの景観と暮らしは、再び辺野古計画で大きく揺さぶられつつあります。



香川県小豆島の採石場

今、瀬戸内海と奄美が手を携えて…



一粒たりとも戦争に使わせない

母なる、豊饒の海。だが現代社会はその豊かさをひたすら奪い、汚してきた。村上水軍の血をひき、来島海峡の瀬戸を見つめて過ごしてきた阿部悦子。戦後世代のその成長と符合する、高度経済成長の加速は、一方でこの明媚な海と島々を破壊、汚染を深刻化させていた。母親として立ちあがった学校給食運動、ゴルフ場乱開発から自然を守る立木トラスト運動。広い海域をまたぎ、かけがえのない、唯一無二の海を守ろうと立ち上がった仲間たち。それが「環瀬戸内海会議」だ。



環瀬戸内海会議 阿部 悦子

だが理想は遠く、開発と自然保護の攻防は続く。今も伊方原発再稼働や瀬戸内法改悪が待ち構える。そんな闘いの中、ふいを突かれるように表面化した、瀬戸内海から沖縄・辺野古理め立てへの岩ズリ搬出計画。すぐに沖縄、東京に飛び、中止を訴えたのも環瀬戸内海会議だ。今、奄美との連携も加わり、運動は西日本、日本中に広がりはじめている。一粒たりとも軍事基地に瀬戸内海の土砂は使わせじ。沖縄への真の平和を求め、瀬戸の叫びは絶えることがない。



空前絶後…2,100万m³、東京ドーム約17杯分の岩ズリが西日本各地から持ち去られようとしています。沖縄に平和を、辺野古と世界中の海を自然のままに。それが私たちの願いです。

「米軍普天間飛行場」移設をめぐる経緯

1995	少女暴行事件
1996	日米が返還合意
2009	鳩山政権が「少なくとも県外移設」
2013/3	安倍政権、辺野古埋め立て申請
2013/12	仲井真知事、埋め立て申請承認
2013/12	環瀬戸内海会議が「岩ズリ搬出」計画中止を要請
2014/1	名護市長に稲嶺進氏が再選
2014/11	沖縄県知事選、翁長雄志氏が任勝
2014/12	衆院総選挙、沖縄の全選挙区で自民敗北
2015/1	菅官房長官、辺野古工事の強行言明
2015/1	自然と文化を守る奄美会議が「岩ズリ搬出」計画中止を鹿児島県知事に申し入れ
2015/2	環瀬戸内海会議、自然と文化を守る奄美会議が環境省、防衛省に「岩ズリ搬出」計画の即時中止を申し入れ

MEMO

皆さまのお力をお貸しください!

- 環瀬戸内海会議
事務局 / 〒700-0973 岡山市北区下中野 318-114(松本方)
tel・fax(086)243-2927
- 自然と文化を守る奄美会議
事務局 / 〒894-0007 鹿児島県奄美市名瀬和光町 2-7(城村方)
tel・fax(0997)54-3457



小豆島が、天草が、奄美が…



沖縄と西日本の自然と暮らしを守るために…。

命ですが、戦世イカユ命ですが、

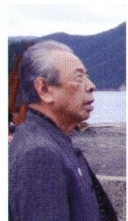
ストップ辺野古！届け平和の願い。



「辺野古許すまじ」

基地のない沖縄へ共闘を

奄美は古くは琉球王国の一員だった歴史がある。近代以降も往来を重ねて、南島文化圏を築いてきた。従って行政圏は違えど親子、兄弟のような親しみを抱く者が多い。戦後の米軍統治からの日本復帰運動でも、共に戦勝国相手に闘ってきた。だが沖縄復帰は強大な軍事基地を内包したままで、その解決無くして日本の戦後は終わらない。その沖縄が今また新たな苦悩を負わされようとしている。普天間空港移設という口実で、ジュゴンが住む美しい海を埋め立て、耐久 200 年の攻撃型基地を造ると言う。そしてその土砂はなんと奄美大島や、遠くは小豆島からも運ばれる。何たる暴挙。ふるさとの二重破壊を止めねばならない。基地のない沖縄の実現に、力を合わせて闘い抜こう。



自然と文化を守る奄美会議 大津 幸夫